

(始良郡溝辺町麓字木佐貫原)

位置と環境

遺跡は鹿児島空港から北西約5 km離の地にあり、高屋山上陵の北側の霧島連山を一望できる標高320mの台地上に位置している。

台地は鹿児島空港の北側に位置する高屋山上陵のさらに北側の南北に広がっており、東側は急崖をもって天降川に面している。

調査の経緯

九州縦貫自動車道の建設に伴って、県教育委員会が昭和51年から昭和52年にかけて確認調査・本調査を実施した。

調査対象地域が南北に長いため、確認調査を実施しながら遺物の集中が見られた4か所を南側から第1～4地点とし、本調査を行った。

遺構と遺物

調査の結果、住居跡等の大型の遺構等は発見されなかったが、溝状遺構4条、小型の土坑2基、小形の炉3基が発見された。遺物はアカホヤ火山灰層から縄文時代後期の遺物が、アカホヤ火山灰層の下から縄文時代早期の遺物が発見された。

第1地点出土の遺物

第1地点では、アカホヤ火山灰層から径30cm、深さが20cmの断面がU字状となった小型の土坑が発見された。また土坑のすぐ脇から縄文時代後期に属すると考えられる土器の表面に絵画様の線刻のある土器片が出土した。

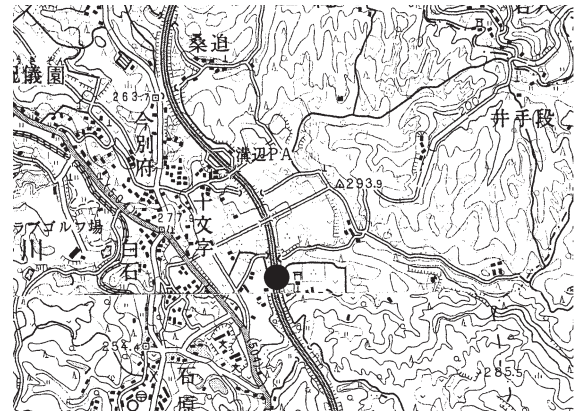
アカホヤ火山灰層の下からは、縄文時代早期の手向山式土器の一群がまとまって出土し、そのうち2個が復元できた。そのうちの1個は器面に山形押型文を施したもので、他方は変形撚糸文を施しているものである。

復元できなかった土器片の中には山形押型文のほかに同心円文押型文等も発見されている。

石器は、石鏃、石匙、磨製石斧、磨石、敲石、凹石や二次加工のある剥片が発見されている。

第2地点出土の遺物

第2地点では流れ込みと考えられる遺物が少量発



第1図 木佐貫原遺跡の位置

見されたのみであった。

第3地点出土の遺物

第3地点ではアカホヤ火山灰層の下から縄文時代早期の塞ノ神式と平椀式土器との中間形態を示す完形土器が底部を欠くもののほぼ1個体分のものと口縁部がやや肥圧した無文の完形土器1個体、無文ではあるが手向山式の器形を呈するものが出土し、ほかに山形押型文土器片と塞ノ神式 Aa 式の撚り糸文を施す土器片が発見された。

石器は、石鏃のみ発見された。

第4地点出土の遺物

第4地点ではアカホヤ火山灰層の上部から古代に属すると考えられる土師器片が少量発見された。

特徴

木佐貫原遺跡は古代の人が短期間利用した遺跡ではあるが、木佐貫原遺跡第3地点出土の土器は、縄文時代早期の塞ノ神式土器文化を研究する上での重要な資料ともなっている。

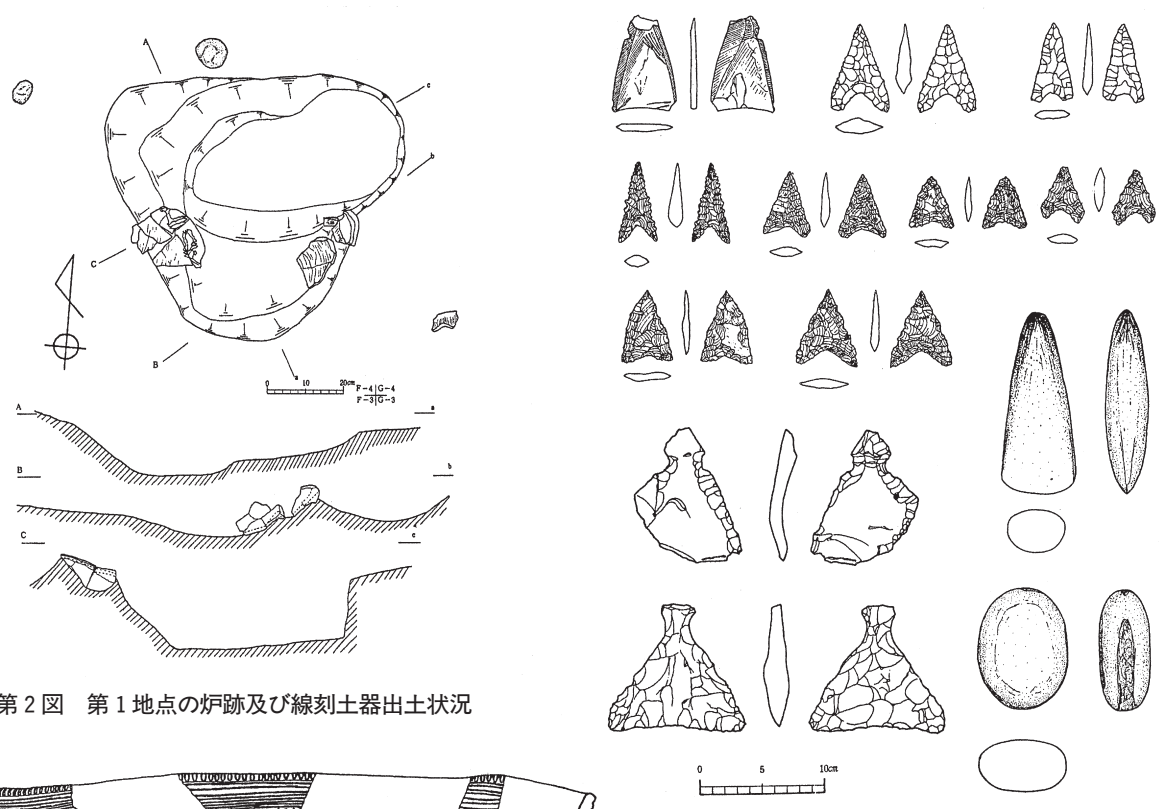
資料の所在

出土した遺物は、鹿児島県立埋蔵文化財センターに保管されている。

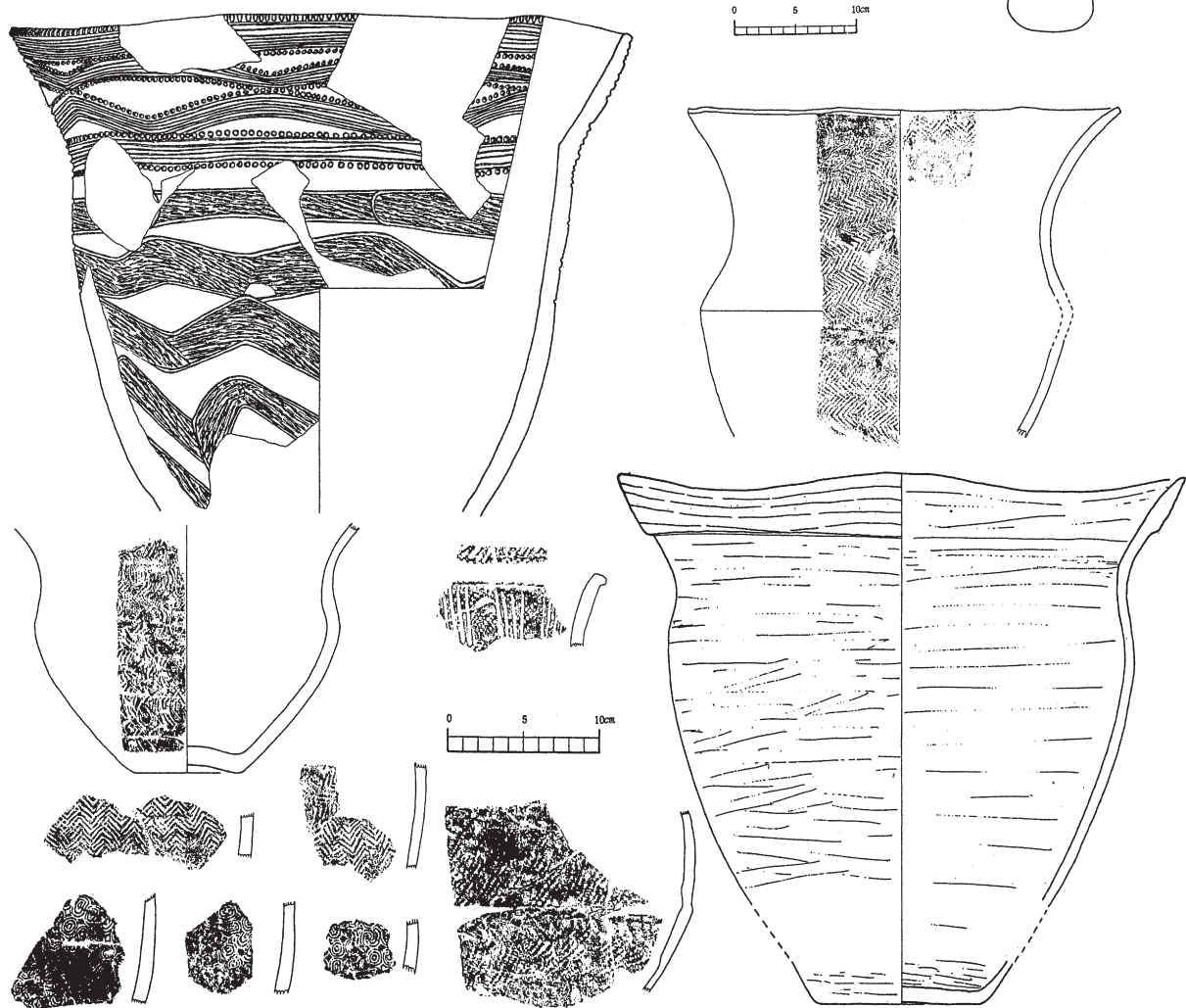
参考文献

鹿児島県教育委員会 1979「木佐貫遺跡」『鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書』11

(吉永正史)



第2図 第1地点の炉跡及び線刻土器出土状況



第3図 出土遺物